健康のかけはし

大田病院の「理念」
私たちの病院は
① だれでも安心してかかれる病院
② 心の通いあう、あたたかい病院
③ 地域の人々と共に歩む病院
であることをめざします。

No. 58
2018年4月24日
大田病院
〒143-0012 東京都大田区大森東4－4－14
☎ 03-3762-8421 発行責任者 渡邉峰人
大田病院は基幹型臨床研修病院です

新入職員を迎えて

前看護学生室 窪田史歩

天候にも恵まれた4月2日、今年も新入職員を迎えることができました。今年は医師2名、看護師16名、リハビリテーション科4名、臨床工学技士1名の仲間をあらたに迎えました。

看護学生室は入職前から、毎月の奨学生会議・採用試験・国家試験対策講座などで、入職予定の学生さんとの関わりがあります。国家試験合格の喜びを共に分かち合った学生さんが社会人になる喜びは言葉では表せません。どうか元気に育ってほしいと思います。新入職員の表情を見ると、うれしさと緊張感と期待感が混在しています。そのような初々しさに私の気持ちも引き締まる思いです。

看護師の新入職員の多くは東京都以外の出身です。北海道から熊本まで、全国から大田病院を選んでくれました。「地域の方々の健康を守るため、地域に密着した医療を行っている大田病院へ」と入職を決意してくれました。その思いに応えるために、より一層地域医療の質を高めなければならないと思います。

誰のための医療か

就職すると研修ののちに実践が始まります。実際の勤めはやるべきことも決まっていて、最初は忙しさを感じることも多いと思います。その際にぜひ「どうして大田病院を選んだか」「自分は何のために誰のためにいま動いているのか」を振り返ってほしいのです。そして先輩方はその振り返りの手助けをしてほしいと思います。新入職員がそこにいる意味を感じられるように、地域医療を共に実践していく仲間であることを語りあってほしいと思います。

私は4月から3病棟へ異動しました。これまでは大田病院の地域医療の魅力を学生さんに語ってきました。今後はまさにその実践を行っていくことが求められます。医師、看護師、コメディカル、外来、在宅、介護などのチームでしっかり手を組み、患者さんやご家族の思いに寄り添い、地域の方々のその方らしい生活を支えるため、これからも努力していく所存です。

ひまわりコンサート報告

職員によるコンサートを年3回開催しています。3月31日㈯15時～16時リハビリ室にて「第64回ひまわりコンサート」を開催しました。患者さま約50名、職員・ボランティア合わせスタッフ約25名の参加でした。「花」や「花は咲く」を一緒に歌ったり、フラダンスの観賞、フルートやオカリナ・リコーダーの演奏、歌と一緒に手を動かし「春が来た」「早春賦」を手話で表現したりと多彩な内容でした。次回は7月に開催を予定しています。

排尿障害は早めの診察を

泌尿器科医師　中村文彦

2017年10月より大森中診療所で週3回の外来診療、大田病院で入院病棟診療の担当をさせていただいております。

2004年に獨協医科大学を卒業し、同泌尿器科入局し、泌尿器科専門医を取得しました。

その後、茨城県の友愛記念病院、JCHO東京高輪病院、川崎幸病院で勤務し、大田病院での診療をさせていただくこととなりました。

大田病院のように地域医療に対して大変志の高い方々と一緒に働けることを、大変幸せに思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

高齢化社会となり、排尿障害を訴える患者さん、癌患者さんが増加の一途を辿っております。なかでも、前立腺癌罹患率は2030年には胃癌を抜いて1位になると予想されております。前立腺癌は早期発見、早期治療により、長期予後を期待できる疾患ですのでPSA高値の患者さんがいたら、早めの受診をお勧めください。

現在、入院診療は、発熱を伴う尿路性器感染症の治療や、小手術を中心に行っております。前立腺癌疑いに対する2泊3日の前立腺生検、膀胱癌に対する3泊4日の経尿道的膀胱腫瘍切除術、前立腺肥大症に対する5泊6日程度の経尿道的前立腺切除術を中心に手術を行っております。水腎症に対する尿管ステント留置や陰嚢内疾患の手術も対応可能です。

尿に血が混ざる、排尿のトラブルなど、何かありましたら、お気軽にご相談ください。

リハビリテーション科の紹介

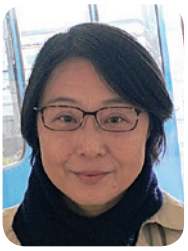
当院リハビリ科はスタッフが総勢50名体制となり各領域の専門分野に幅広く対応しています。リハビリの特徴としては脳血管疾患、整形疾患をはじめ喘息や慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎等の呼吸器リハビリも積極的に行っています。また、近年増加している癌に対してのリハビリでは専門の講習を受けたスタッフが対応しています。更に糖尿病教育入院の患者に対しては専門の運動療法を行っています。その他、特徴的なリハビリとしては嚥下障害の患者さんに対してVF（嚥下造影検査）、VE（嚥下内視鏡検査）に基づいた治療や摂食指導を行っています。足底板療法では、変形性膝関節症や外反母趾、偏平足、腰痛に対して効果を得ています。

このように多種多様なリハビリを行うにはより専門的な知識と技術の習得が欠かせません。そのため多くのスタッフが外部研修に参加したり、科内で勉強会を開催したりして日々研鑽に励んでいます。呼吸療法認定士や糖尿病療養指導士、フットケアトレーナー、ノーリフトケアコーディネーター等専門資格を取得するスタッフも年々増えています。回復期リハビリでは休日リハの施行により1年365日休みなくリハビリを行い、平日1日1患者に平均6.5単位（2.5時間）以上の十分なリハビリを提供しています。

今後も地域の病院としてあらゆる疾患に対応できるリハビリ、またリハビリ専門病棟（回復期リハ）としてしっかり成果の出るリハビリを行っていきたいと思います。

（リハビリテーション科　科長　髙橋正史）

リレートーク



おおもりまち訪問看護ステーション
平和島営業所

横山尚子

訪問看護ステーションから利用者さまのお家に伺う作業療法士です。私の1日はラジオから始まります。時間で放送内容が決まっているのでタイマーを音楽、天気予報、時報等に合わせることができます。バレンタインの日にはLOVEという曲、卒業のシーズンには旅立ちの歌がかかったりして、時節の移りを感じますし、あとで今日は何の日というコーナーを聞いて合点がいくこともあります。そんな日は朝からちょっと得をした気持ちです。日本各地から寄せられるイベントや風景の情報に想像をたくましく出かけたような気分になったり、短い評論から社会に新しい関心を持ったりすることもできます。

一番はリスナーの方々のお便りにアナウンサーだけでなくほかの方からも共感や感動、励ましが寄せられ、一方的でないやり取りにいつも安心します。聞いている私にもほっこりした気持ちを分けてもらえるラジオが当分手放せません。

次回は介護保険室坂井さんです。